



## 学校の再開にあたって

校長 土佐野 睦

緊急事態宣言が解除になり、6月1日から学校が再開されました。長い臨時休業となり、普段学校にいる時間での家庭での過ごしや学習の支援等、保護者の皆様にはたくさんのご協力をいただきありがとうございました。

しかし、学校は再開されましたが、まだコロナウイルス感染症がなくなったわけではありません。

1/3の人数による分散式登校や短縮授業など段階的に学校を再開していくとともにマスクの着用や手洗いの徹底、ソーシャルディスタンスなど「新しい生活様式」に基づいた学校生活のルールを子どもたちに理解させるとともに、感染症対策を講じる中で安全で安心して子どもたちが、学校で過ごしていけるように配慮していきたいと思えます。

学習の遅れについても学校行事の精選や夏季休業の短縮等で授業時数を生み出すとともに教科を連携させた効率の良いカリキュラムの見直し、各単元の指導の重点を明確にして取り組むことで、学習の定着を図っていきます。子どもの安全を第一優先と考える中で、子どもたちの学力の定着についてもしっかりと見据えて取り組んでいきます。

学校再開にあたり、学校の力だけでは厳しい部分が多々あります。先週の3日間の登校日で子どもたちの登下校を見守りに登校班の集合場所や学校へ数多くの保護者や地域の皆様が足を運んでいただきました。林間小は子どもたちを支える保護者・地域の土台がとてもしっかりしていると改めて感じました。これからも皆様の力をお借りすることになりますが、よろしくお願ひします。

さて、臨時休業中のご家庭での過ごしはいかがでしたでしょうか。テレビを見ていると、外出の制限やいつ収束するかわからない感染症の不安などストレスがたまり、家族に暴力をふるってしまったなどの悲しいニュースも目にしました。

先日、我が家では一つの事件が起きました。土曜日の夕方に「走ってくる」と出ていった長距離をやっている息子が 8 時ごろに青い顔をして帰ってきました。走っているときに、ランニングポーチに入れていたポシェットを落としたとのこと。中に入っていたものは「家の鍵とパスモと1万円」自宅(座間)から走って本厚木の駅で気づいたという。どこで落としたかわからず、走った道を戻りながら探したが見つからない。途中からは、日も暮れてなかなかうまく探せなかったようでした。一通り息子を叱ったあと、娘を含めた家族4人で懐中電灯を持ってもう一度探しに行こうということになりました。「緊急事態宣言がまだ解除されていないこの時期、落ちていたものをそう簡単に拾わないのではないか」という期待と「大きなお金が入っていて、持っていかれてしまったかな…」の不安の中、家を出たのは8時半。妻と息子は本厚木駅から自宅へ向かって、私と娘は、自宅から本厚木駅に向かって懐中電灯を照らしながら歩きました。走った経路を息子に電話で聞きながら、くまなく探しましたが、なかなか見つかりません。2時間ぐらいかけて5キロ以上歩いた海老名の相模川沿いの公園で、向こう側に見えた2つの懐中電灯の明かり。探し物でなければ感動的ですが、見つからないことが確定してさらにかっかり。またこの5キロの道を今度は4人で探しながら帰りました。当然見つからず、家の近くの座間駅に到着した時には、もう12時を回っていました。走り始めて2キロぐらいのところまでポーチを開けたということだったので、駅前の交番に届いているわけではないとは思ひながら「一応聞いてみよう」ということで、交番に入って息子が聞くと、この交番には届いていないが、ほかの交番に遺失物として届いていないかと交番の方が時間をかけて調べてくださり……。なんと海老名の警察に届いているって。パスモの名前が一致し、物は確実のようですが、お金の情報については分からないとのこと。お金よりも、とにかく鍵が見つかったことで、もう十分だとホッとしました。後日、息子が海老名警察に行くと、お金も鍵もパスモも全部そのままのこと。海老名警察の近くは走っていないが、拾った人がわざわざ時間をかけて届けてくれたと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。拾って届けてくださった方、警察の方のやさしさにふれ、本当に嬉しくなりました。

長い臨時休業で人とのかわりが減り、家族以外の人たちからのやさしさに出会うことが少なかったかもしれません。学校が再開した今、林間小の子どもたちが友だちや先生と関わる中で、たくさんのやさしさと温かさにふれたいと願っています。

